

---

# 白い恋人

ヤストシ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

白い恋人

### 【Nコード】

N7124P

### 【作者名】

ヤストシ

### 【あらすじ】

サトシと別れてから年月がたったクリスマスが今年もやって来た。だがカスミは誰もいない空間で、独りクリスマスを過ごす事に……。けど、そんな寂しさと悲しさを抱えていた彼女に奇跡が起きる。それは、カスミとサトシのクリスマス短編小説である。

## （前書き）

今回は、サトカスのクリスマス小説をお送りします。

クリスマスに必ず起きる恋の奇跡。

そんな時1人の男性がピアノを弾いていた。

『夜に向かつて 雪が降り積もると、悲しみがそつと胸に こみ上げる。涙で心の灯を消して 通り過ぎてゆく 季節を見ていた。外はため息さえ 凍りついて 冬枯れの街路樹に 風が泣く、あの赤レンガの停車場で 二度と帰らない 誰かを待つてる』

男性は、ピアノを弾きながら歌っていた。そしてこの歌詞どおりに今年のクリスマスに奇跡が起きる。

ここハナダジム。そしてジムリーダーカスミは恋をしていた。相手の好きな男の子は、イッシュ地方にいるため会うことは、簡単にはできない。しかも彼と最後にクリスマスを過ごしたのはジョウトリーグ開幕直前であった。そしてそれ以降クリスマスは、カスミと姉達で過ごしていた。

ところが・・・

カスミ「えええええ！？みんなどつか出かけちゃうのお！？」

サクラ「そうなのよ。ポケモン大好きクラブのクリスマススペシャル番組出演のために出かけなければ行けないから・・・」

カスミ「だからあたしが留守番って言うのお！？」

アヤメ「しょうがないわよ。招待状はあたし達三人だけしか貰っていないんだから・・・」

ボタン「ま、出がらしはお留守番お願いねえ〜！」

カスミ「誰が出がらしよ、誰があ！？」

サクラ「ごめんね、カスミ。帰りにクリスマスプレゼントのお土産でも買いに来るから、その時までお留守番お願いねえ！」

アヤメ「じゃ、あたし達もう行くから！もう直ぐバスが来る時間だから！」

ボタン「お留守番頼んだわよー！」

カスミ「あ、ちょ、ちよつとお！！！」

三姉妹達は、そのままカスミを置いて、出かけてしまった。余りにも寂しさに落ち込むカスミは、そのまま床に座り込んだ。

カスミ「そんなあゝ・・・聞いてないよあゝ・・・。今年もクリスマスパーティーしようと思ったのにゝ・・・。」

落ち込むカスミの前にルリリがやってくる。

ルリリ「リルルル？」

カスミ「しょうがないわ。外に出かけましょ」

そういつて外出するカスミ。しかし彼女の胸の中では悲しみと涙でいっぱいであつたがそれらをこらえていた。

街中は、恋人達でいっぱいであつた。何しろデートスポットで有名なハナダ岬が近くにあるので毎年この時期になると沢山やってくる。

カスミ「サトシ・・・」

そう悲しい顔をしながら歩いていた時ある歌が聞こえてきた。

『今宵 涙こらえて奏でる 愛の Serenade 今も忘れない

恋の歌。雪よ もう一度だけ このときめきを Celebrate、ひとり 泣き濡れた夜に White Love。聖なる鐘

の音が 響く頃に 最果ての街並みを 夢に見る。天使が空から降りて来て 春が来る前に 微笑をくれた Woo・・・』

一人の男性がピアノを弾きながら歌っていた。そして1枚の便せんをカスミに渡す。

カスミ「なんですかこれ？」

カスミは、男性に尋ねるが男性は、ピアノを弾きながら歌を歌っていた。

しょうがなく家に帰るカスミ。

家には、誰もいない。いるのは、カスミのポケモンたちだけ。カスミは、ベットに乗り、横になるとみんな心配そうにカスミの前に集まってきた。

カスミ「みんな・・・」

カスミは、少し寂しさがやらいだ。その時あの男性の歌が聞こえてきた。

『心 折れないように 負けないように Loneliness  
白い恋人が待っている。だから夢と希望を 胸に抱いて For everness。辛い毎日が やがて White Love』

そしてピアノからギターの音がカスミの耳に聞こえてくる。するとその時便せんが突然光そのまぶしさのあまり目をつぶってしまうカスミ。

カスミ「何なのこの光は？」

そういつて光が収まったときカスミとカスミのポケモンたちはいなくなっていた。

カスミ「ここは・・・」

カスミは。目を覚ますとそこはカスミの部屋ではなく街中でしかも古い倉庫が並んだ雪の中にいた。

カスミ「何が起ったの？ここは、どこなのよ」

カスミは、知らぬ間に違う場所にしかも知らないところにいて混乱していた。

すると、後ろを振り向くとルリリ、スターミ、サニーゴ、カスリン（ラブカス）、コダツクがいた。

カスミ「みんな大丈夫？」

カスミは、ポケモンたちに尋ねるとみんな平気だよという顔をする。その時また歌が聞こえてくる。

『今宵 涙こらえて奏でる 愛の Serenade 今も忘れない  
恋の歌。せめて もう一度だけ この出発を Celledra te』

カスミは、歌が聞こえるほうへ歩いて行くと帽子を被って肩にピカチュウを乗せた男の子がいた。

カスミ「サ、サトシ・・・」

そうつぶやくカスミ。

するとカスミのつぶやく声が聞こえたのか？少年とピカチュウこちを向く。

少年「カ、カスミ！？」

カスミ「サトシ」

カスミは、走りながらサトシに抱きつく。

サトシ「カスミ。どうしてここに？」

カスミ「そんなことは、どうでもいいわ。会いたかったよ。サトシ」

カスミは、涙を流しながらサトシに言う。

サトシ「カスミ・・・俺も・・・俺も会いたかったぜ」

そういつてカスミをギュッと抱きしめるサトシ。

カスミ「サト・・・」

カスミが何か言おうとしたときサトシは、カスミの唇にキスをする。彼女は、驚いたが彼女にとってはうれしくて仕方がなかった。

サトシ「カスミ。俺、お前のことが好きだぜ」

恋愛に鈍感なサトシからいきなりの告白。

カスミ「私も・・・私もサトシのことが好きだよ」

そういつてカスミがサトシの唇にキスをする。

二人にとって最高のクリスマスとなった。

そんな二人を遠くから見つめる目が二つあった。

「誰なのよ。あの子？しかも大胆にキスするなんて～いつもは子供なのに」

「まあまあ。それにしてもサトシに好きな子がいたとは、僕も驚いたよ」

「あとでサトシを問い詰めよう」と

「アイリスたら～」

二人を見つめていたのは、サトシとともに旅をしているアイリスとデント。

アイリス「明日シッポウジム戦なのに・・・」

デント「まあまあ。今日は、ホワイトクリスマスになったしそれに

こうしてサトシが好きな子に告白とキスも見られたし」

アイリス「そうね。いいもの見られたしね」

笑いながら言うアイリス。

二人は、確かに今とても幸せであった。

そして雪が降りながらあの歌が聞こえてくる。

『ひとり 泣き濡れた 冬に White Love、Ah、ah、永遠の White Love My Love、ただ逢いたくて もう せつなくて 恋しくて・・・涙』



## （後書き）

サトシがシッポウジムに挑戦直前を設定としたクリスマス小説どうでしたでしょうか？ちなみにこの歌は、桑田佳祐さんが歌った白い恋人達です。またこの白い恋人達を聞いててこの小説を思いつきました。それでは、皆さん私の小説をこれからもよろしく願います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7124p/>

---

白い恋人

2010年12月30日19時33分発行